青木の風

生きる　創る　そして輝く

学校だより８・９月号

令和８年８月２７日
横浜市立青木小学校

「やってみな分からん」

校　長　杉山　嘉子

地震、記録的な豪雨などにより、被災された地域に御親族がいらっしゃるご家庭のみなさま、地域にゆかりのある方におかれましては、大変なご心配とご苦労をされていることと思います。心よりお見舞い申し上げます。

「やってみな分からん」 夏休みに入る少し前から、私の気持ちを奮い立たせてくれる「マイブームワード」です。これは、福井県内の高校で実際に行われた取組を基に制作されたドラマ「サバ缶、宇宙へ行く」に登場する高校生の言葉です。「ここで作ったサバ缶を宇宙に飛ばせるのでは？」という生徒の問いからスタートし、サバの缶詰を宇宙食にしたいという壮大な夢の実現に向けて探究する生徒たちの姿が描かれています。最初はだれもが実現は難しいと疑わなかった壮大な夢を高校生たちが実際にかなえてしまったのですから、驚きです。試行錯誤の連続の中でも、目先の成果や自己の利益だけを求めるのではなく、他者と協働して取り組む生徒たちの姿勢、地域に100年以上続くサバ缶づくりの伝統技術を、現代の最先端科学である「宇宙食」につなげることを通して学びを深めているところに素晴らしさを感じ、高校生が「やってみな分からん」と挑戦し続けいる姿に元気をもらいました。なぜ、その夢が夢だけで終わらず、実現できたのでしょう。語りつくせぬ様々な理由があることは想像できますが、この探究のプロセスには、「自分ごと」と捉え主体的な学びがあること、先輩から後輩へと15年間にわたり研究が引き継がれ、「世代を超えた協働」があることが、壮大な夢の実現につながった理由の一つなのかなと考えます。

さらに、探究活動に取り組む生徒たちの、失敗から学ぶレジリエンスも素晴らしいものです。答えのない時代を生き抜いていかねばならない子どもたち、そして私たち大人にも今、必要な力であると再認識すると同時に、心理的安全性の担保された環境で失敗を重ねることが、私たちの挑戦する力の支えになるのだとも感じました。

青木小の子どもたちは、「知りたい」「やってみたい」という学びに向かう意欲が高く、いつも驚かされます。夏休み明けも、子どもたちが安心して挑戦できる授業づくり、環境づくりができるよう、全教職員で努力を重ねてまいります。そして、教職員も、心理的安全性のある中で、互いの挑戦を支え合えるような「チーム青木」となるよう、引き続き頑張っていきます。40日間の夏休みから学校生活を取り戻していくことは、なかなか難しいことです。子どもたちも教職員も、心のエネルギーをチャージしながら、夏休みの学びをこれからにつなげていきます。

昨年度の南校舎トイレ改修や体育館空調設置工事に続き、今年度は校舎内の照明が新しくなり、LED 化されました。安心安全な教育環境づくりに向けても、少しずつ進行中です。

今月もどうぞよろしくお願いいたします。





子どもたちを迎える準備万端です